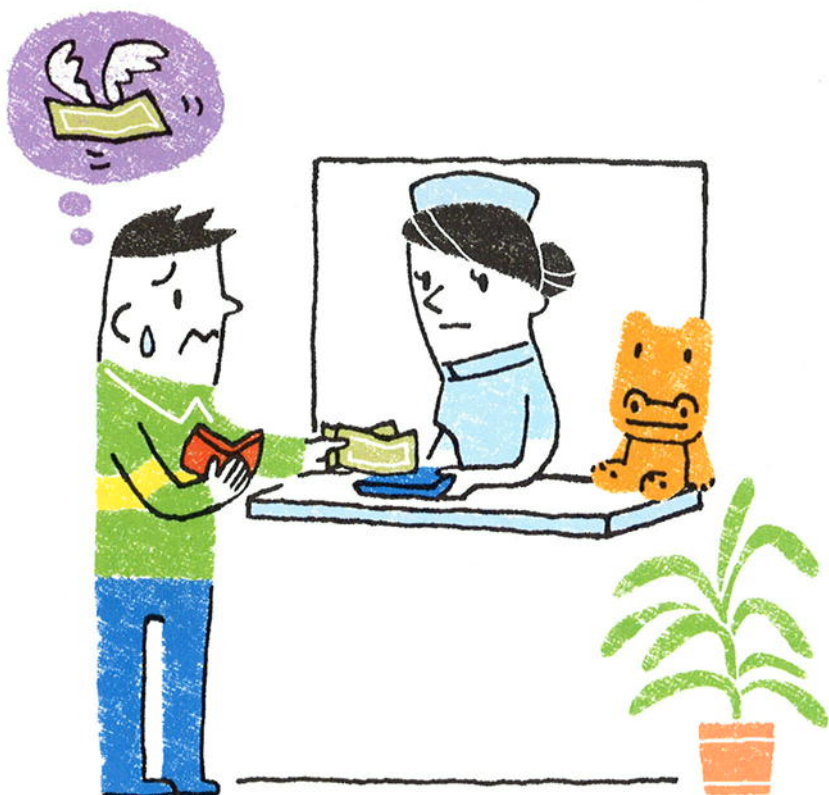




「窓口負担が高くなったなあ」
と思うことはありませんか？

保険でより良い 歯科医療を目指して



日本の歯科医療は優等生

みなさんは、「補綴」という言葉をご存知ですか？

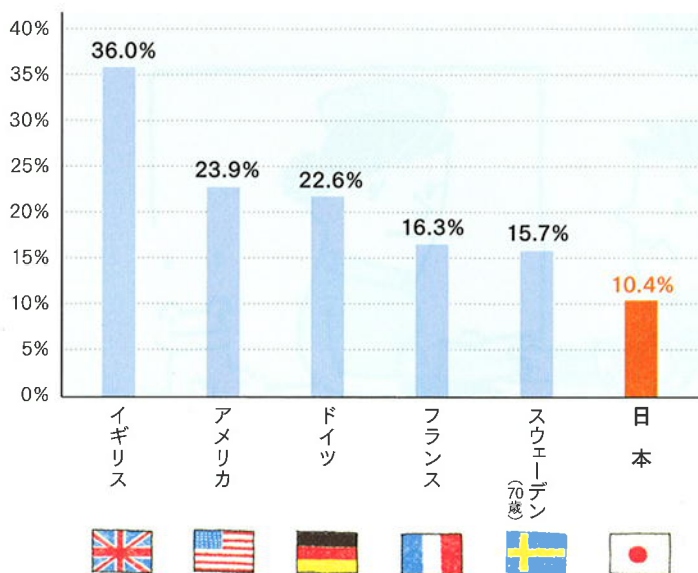
歯科の専門用語で「**ほてつ(=補綴)**」といい、むし菌などで失った歯に詰め物や被せ物、入れ歯を入れて歯の機能を回復することです。

「補綴」治療が保険診療で実施されていることで、

世界的にみても日本の高齢者は、歯のない人が非常に少なくなっています。*

そんな歯科の「補綴」治療が保険から外されるかもしれません。

日本は歯のない人が少ない (65歳~74歳で歯がまったくくない人の割合)



日本人には歯がたくさん残っているんだね



日本歯科医師会『歯科医療白書2008年版』

※世界的に見ると「補綴」治療は、他の歯科処置より患者負担が高かったり、保険給付の対象とされていない国もあります。しかし「補綴」治療が見直され始めています。スウェーデンでは、口腔内を健康に保つための予防中心の歯科医療だけでは不十分として、最近、「補綴」の保険給付が始まりました。

入れ歯治療が危ない

入れ歯や詰め物に保険がきかなくなったら…

現在

将来



厚労省は、2008年の年末に入れ歯などの「補綴(ほてつ)」治療を
保険からはずしていく方向※を示しました。

「補綴」治療が保険からはずれるということは、歯を削ったり、
抜いたりした後の治療費が、患者さんの**全額自己負担**になるということです。
これでは窓口負担が不安で歯科を気軽に受診出来なくなってしまいます。

※厚労省は、歯科の補綴分野で「選定療養」を拡大しようとしています。「選定療養」とは、指定された治療行為が、患者さんの全額自己負担となる制度です。いったん「選定療養」に指定されると、今後、二度と保険導入されなくなるなど、保険のきく範囲を縮小することにつながります。

お金がなければ 歯の機能回復が出来ない

「補綴」治療が全額自己負担になれば、
お金のある人しか歯の機能回復が出来ません。
公的保険がほとんどないアメリカでは、
貧困層の約10人に一人がまったく歯がないという調査結果もあります。
日本でも格差社会の広がり、ホームレスなどの貧困層で
口腔内の状態悪化が急速に進んでいます。*

歯がまったくない大人(35歳~44歳)の割合

(アメリカ貧困層は35歳~64歳)



日本歯科医師会『歯科医療白書2008年版』

*大阪府保険医協会が実施するホームレス対象の青空健診では、30歳代でもほとんど歯がない方がいるなど、口腔内の状態が非常に悪くなっています。患者さんの自己負担が高くなり、口腔ケアが満足に出来ない状況が広がっています。日本もアメリカのように歯が抜けたまま、削ったままになる可能性があります。

今でも歯科は受診しにくい

成人の8割が歯周病

年齢	歯周疾患の所見あり
5～9	38.9%
10～14	51.2%
15～19	66.1%
20～24	76.2%
25～29	74.7%
30～34	80.3%
35～39	79.5%
40～44	84.6%
45～49	86.8%
50～54	87.5%
55～59	85.5%
60～64	84.2%
65～69	80.4%



厚労省「平成17年歯科疾患実態調査」

厚労省の調べでは、**成人の8割が歯周病**という結果が出ています。※

これは、20歳から69歳だと7000万人が歯周病ということになります。

しかし歯科の治療のために歯科医院に通う人は、

むし歯や他の治療を含めてもたったの566万人しかいません。

すでに歯科を受診しにくい状況があるのではないのでしょうか。

※厚労省の患者調査を見ると、既に5歳～9歳でも38.9%が出血や歯石の沈着など、歯周疾患の症状があります。しかし歯周疾患は、自覚症状が少なく、徐々に進行することから治療が遅れがちになります。歯周病は、放置すると歯が抜けたり、生活習慣病や循環障害などの増悪の原因となります。

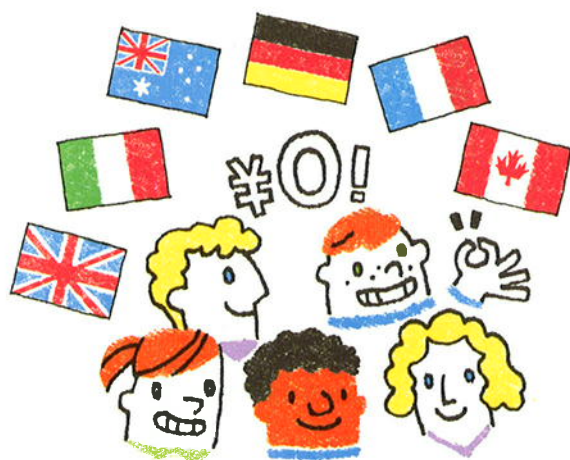
高すぎる日本の窓口負担

日本では、あまりの窓口負担の高さに受診の手控えが起きています。

特に歯科では、お金がある人とない人の歯科医療にけるお金にはっきりと格差が出ています。

世界的に見ても、日本の窓口負担は異常と言えるほど高額です。*

異常な日本の窓口負担



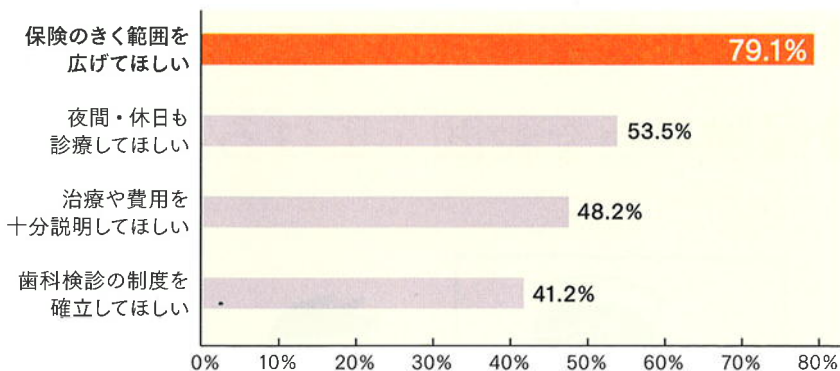
窓口負担
1~3割



※日本でも80年代初めまでは、健康保険や老人保健で窓口負担は無料でした。しかし1980年代に「医療費亡国論」が振りまかれ、窓口負担が連続的に引き上げられてきました。現在では世界に類のない3割負担が原則の国になってしまっています。

みんなの願いは 保険でよい歯科医療

「保険のきく範囲を広げてほしい」がトップ



「保険で良い歯科医療を」全国連絡会患者アンケート調査（2006）

保険のきく範囲を広げてほしいのは
多くの人の
願いなんだね



保険で良い歯科医療の実現をめざす全国連絡会が実施した

患者さんへのアンケートでは、「保険のきく範囲を広げてほしい」という要望が79.1%と最も多くなっています。

保険でより良い歯科医療の実現は、みんなの切実な願いです。

医科では、必要な医療がほとんど保険で受けられるのに対して、

歯科では、金属床の入れ歯や白い歯の被せ物など、

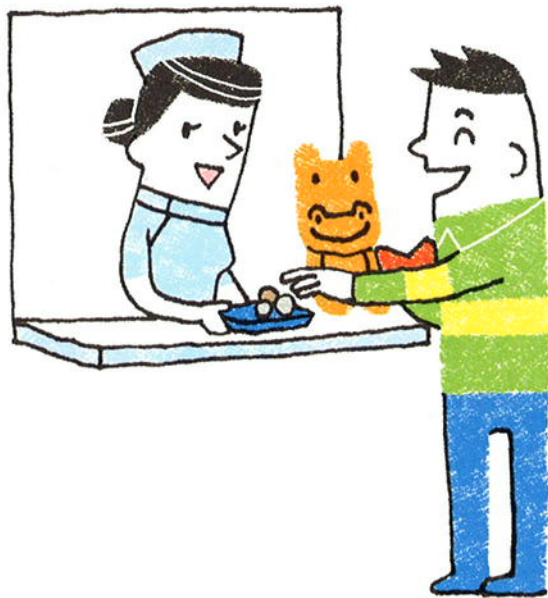
保険のきかない治療が多く残っています。

それは、政府が長い間、歯科医療費を厳しく抑制してきたからです。

いつでも、どこでも、だれもが、お金の心配のいらない
「保険でより良い歯科医療」の実現を求めて

私たちは要望します

- ①窓口負担を軽減すること
- ②保険のきく範囲を広げること



大阪府歯科保険医協会

TEL.06-6568-7731 FAX.06-6568-0564

〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-33

<http://osk-net.org/>